

令和4年度第1回 熊本市地域包括支援センター運営協議会会議要旨

- 1 日時 令和4年9月2日（金）
- 2 場所 市役所10階会議室及びTeams（チームズ）によるオンライン会議
- 3 出席委員 東和子、石橋敏郎、大道友美、貴田雄介、田口慶治、田中弥興、長尾和好、藤井美千代、藤本雅士、本庄弘次（敬称略）
- 4 議事 地域包括支援センターの運営状況及び評価について
- 5 その他
 - ・（報告）令和4年度 地域包括支援センターの重点的取組
 - ・（報告）地域包括支援センターにおける不審者対応訓練について
- 6 議事記録等（要旨）

議事

＜地域包括支援センターの運営状況及び評価について＞

○委員

2点お聞きしたいんですが、一つは、6ページの資料で、権利擁護事業のところ、虐待の対応が非常に増えてきているという報告で、なるほどと思ったのですが、昨日、障害者自立支援法の審査会だったんですが、そこでの意見で、障がいのある方が虐待を受けている場合になかなか受けてもらえる施設が見つからない、という担当者の意見が出ていました。そういう問題があるかないかということをお教えいただければというのが1点と、それからこれに対してどう対応していくか、もし何かアイデアがあったら教えてください。

また、もう1点としましては、各センター非常に努力されて、とても好評価で素晴らしいと思います。敬意を表します。もし、今回のコロナであったり、あるいは熊本地震みたいな災害が起こったときに、事業継続ができるのか。どこのセンターもぎりぎりの人員で莫大な内容の仕事を抱えておられる。災害のときこそまた必要になる事業だと思んですけども、事業継続計画というのは、これから作っていくことができるのか、あるいはもう既にあるのかどうか、教えていただければありがたい。よろしくお願いします。

○会長

この虐待というのは在宅での、つまり家庭での虐待のことを言ってるんですね。家族から虐待を受けているとか、貯金通帳を家族が取上げてしまってるとかそういう話ですね。そういうときの対応としては、包括はどこかに繋ぐだろうけど、委員の話では施設の場合はどこかで引受けてもらって別なところについていうやり方でしょうが、在宅は簡単にいかないだろう。まず家族にその話をするのか。

○事務局

具体的に今ここでお答えするは難しいところではあるんですが、虐待の対応ということで、包括の中で各専門家がおりますので、困難事例など会議等を開いて、こういったところに繋ぐかというのを検討している状況であるかと思います。

○委員

地域包括の仕事というのは、いかにどこに繋ぐかっていう問題があるんですね。ですから、繋ぐ場所のバンクみたいなものがあれば1番ありがたいなと思うんですね。例えば、認知症の問題なんかあればここに相談するとか、あるいは、そういう障がい者の問題があって起こった場合には、この施設はよくやっておられるみたいなのが、ある程度情報としてあると、いいのかなと思って提案しました。

○事務局

確かに、包括職員が地域資源など、つなぐ場所を把握してるところだと思ってます。そういった経験をずっと積み重ねてきておられていますので、そういったところを活用して、解決に向けて取り組まれるというふうに思っています。

○会長

もう1点の、コロナ禍で業務継続をですね。施設だと、クラスターが出ると応援に来てもらう仕組みができています。包括でもありうると思うんだけど、どうなってますか。応援体制みたいのあるのか。

○事務局

新型コロナウイルスの感染者が包括支援センターに複数発生をいたしまして、業務継続が難しいという場合につきましては、包括支援センターと福祉課と協議をいたしまして、最低限の業務を継続するために、近くの包括支援センターから職員を応援で派遣をいたしまして業務を継続するという体制をとるようにしております。ただ実際、そういった事例は発生しておりませんけれども、高齢福祉課と福祉課と包括支援センターと協議をいたしまして、実施をする方針です。

BCPにつきましては、前回の介護報酬改定で、介護サービス事業所については、計画を策定するよにということになっておりましてささえりあも同様ですので、来年度中までには、各包括毎でBCPを作成するというようになっております。

○委員

例えば、今回医療機関なんかでもそういうふうな助け合いをやろうということで、人のやりとりをしたんですが、助けに行った人が感染してしまったとか、あるいはもうすぐ抜けた間に抜けた事業所が疲弊してしまったとか、ということで問題が起こっている残存リスクですよ。ですから、そこらへん用心して、しっかりと取り組んでいただければと思います。

をしました。以上です。

○会長

包括はぎりぎりで行っているから、応援に行きたいのはやまやまという気持ちはあると思う。それが起こってないからよかったけど、これから起こったとき、誰がどういう形で具体的に支援に行くか、考えておかななくてはいけないかもしれない。

○委員

私は民生委員をやっているんですけども、今言われたように、今のコロナ禍の状況の中で、事業継続ができるかという、非常に難しいところがあるような気がする。身近なセンターの話とかいろんなものを聞くと、現実にはあるんですよ。規則とか規定とかの中では、今言われたように、近隣のセンターからの助成をするというようなお話しが基本的にはあるんですけども、現実には、自分たちが、置かれてる立場の中で、濃厚接触者だ、陽性者だいろんな形が出て、勤務の総配というのは、身近なところで見らせていただくと、大変な状況ですね。まだ、必死に自分たちが頑張ってる姿っていうのは、いろんな会議とか、私たちもささえりあさんにいっぱい出てきてくれるんですけども、相当勤務のローテーションの問題とかは深刻で。今から先のことを考えたりすると、いかんせん熊本は、高止まり（コロナの感染者が）っていうか、多いですよ。そういうのを考えていくと、もっとこの1番底辺にあるその、センターの人たちが地域の中に出てきてもらわないと。例えば高齢者とか今の状況の中でほとんど、皆さんが外に出れないわけですね。私もよく回んですけども、今訪問活動は、まだまだ自粛をして欲しいというような感じの中ですから、結果的には見守り事業みたいなものは、見守りだけで安否確認するような形なんですよ。ですからそういうところを考えていくと今から、特に、普通言われてます2025年問題とかになったときに、人員も、高齢者が60歳以上が4人に1人とか、いろんな形になってくると、今の体制を、決められた範囲の中に人員とか、人件費の問題とかあるんでしょうけども、もっとその辺も手厚くするような施策をとっていかないと、もうかなり継続とは難しくなってくるのかなあ。高齢者はとにかく増えてばかりの今の状況の中ですから、そういうのは心配なところがあるかなあと思っています。

○会長

評価について。一応基準ちゃんと平均点では見ると比べると分かる。よく頑張っているかとか、ここはちょっと努力しないといけないとか。最後の総合計に、行政評価132.4とされてる。試験だったら100点満点の80点とか。これは満点の記載がないから、この評価だけ見たって、どうなのこれとなる。ただ難しいのは基準点プラス、追加点みたいのもあるので、一応基準点の合計が分からないと、この数字だけでは全体的にどうかっていう評価ができない。

○事務局

申し訳ありません。数字の整理が不十分でございました。ここは、修正をさせていただいた後改めて御報告させていただければと思います。

○会長

基準点だけ満点という発想ではない。せいぜいここは守ってほしいという基準より超えてるかどうかかわければ。次回でいいです。

○委員

今回、この会議に出る上で、包括の活動が詳しくよく分かっていなかったもので、自宅の近くにある包括のほうに訪問させていただいて、現状みたいな話をお尋ねしました。

そこで、私が気になったのも、やっぱコロナでも職員の方が休まれたときに、どういうふうにかバーをしますかみたいなことを尋ねたところ、その3職種の皆さんは、それぞれ担当は決まってるけどそれぞれの仕事は代わってやれる、皆さん分かってらっしゃるから代われると話をされて、そこは問題ないみたいなんですが、クラスターの発生はやっぱりすごく心配なのかなとは思いました。

あとその職員の皆さん、人数は足りてますかみたいなことを尋ねたんですけど、そこは十分足りてますみたいなことをおっしゃったけど、現場の感覚としては場所によって違うのかもしれないんですけども、十分な感覚ではいらっしゃるんだなとは思った。

でもその一方で、場所によっては職員がやめられる。職員さんがやめられて、応募しても、次の人がいらっしゃらないみたいなのところもあるので、条件というか、給与面であったりとか、あるいは休みがどれだけとれるのかみたいなのところであるとか、もっと向上させることができれば、もっとこう手厚く、いけるのかなというようなことも感じましたっていうのが1点。

あともう1点はこの、評価のところ、これはそれぞれの複数あるところの平均みたいなところでの点数だと思うんですけども、やっぱその場所によって多分、強いところで弱いところみたいなのがあって、かつその、会議をしたりとか、共有みたいなことは、結構定期的にされてるっていうことなので、お互いに勉強してるっていうか、こういういい取組があれば、皆さん、続けてやったりとかをされてるとは思うんですけど、それでもこう、評価がちょっとほかよりは落ちてる部分っていうのは、多分多くのところで課題に感じてる部分だと思うんですけど、そういうところを、研修会になるのか分からないんですけど、より向上していけるような、年間通して、どっかのタイミングで、いわゆるそういう研修会をやったりとか、何かその県外で、うまく解消してるとこあれば、そういうところの先生呼んで事例を発表していただくとか、そういうことができればいいのかな。思いました。

クリアしてるとこはもう十分、出来てると。感じました。

○事務局

先ほど委員がおっしゃられた体制について、包括の大変な状況、体制についてご意見いただいたと思います。それにつきましては、我々としても、包括に業務を委託をさせていただいておりますので、どうゆう業務をやっていただくかという、整理といいますか、できるだけ業務負担が軽減できるように、本来の業務に専念できるようにとか、濃淡と言いますか、力を入れていただくべきところに入れていただくための、効率的な業務のやり方であるとかそういったところを、我々としても、委託する上で整理をしていきたいなというふうに思っています。そういったところで充実を図っていただければなと。

それと、先ほど研修会であるとか、包括支援センターの中でも協議会を立ち上げられてまして、その中で業務改善部会であるとか、いろんな改善の取組であるとか、研修についても、研修部会もありますので、そういったところでやられてるような状況で、包括の中で連携されて、取組については共有をして、そういった勉強会も重ねられているところです。

○事務局

補足よろしいですか。研修部会というのがあるんですか、去年は地域包括ケアシステムがうまくいっている他都市のお話聞こうということで、研修会企画されて、お話を聞いたというようなこともありました。あともう1点ですね、今日お見せしているのはもう平均点しかお見せしておりませんけれども、もちろんその仰る通りですね、各包括によってここが平均点を上回っている。下回っているというのがありますので、この会議が終わった後に、全ての包括と面談をして、ここが平均より上回っている、ここが下回ったよってというのは事実をお話しして、その中で他の包括ではいい取組をしていたという紹介もいたします。各包括の困り事をですね27か所、全ての皆さんとお話しよう機会を持っているというような状況です。

○会長

これはあくまでもおっしゃるように平均なので、頑張ってるところとそうでないところはないと思うが、いろんな事情があってケア会議は開けなかったとかある。そうすると、本来のこの順位を公開したらどうかという意見も過去にはあった。包括からも、うちは何位ですかという意見が聞かれた。でもね、これ公開しにくいところもある。じゃあ、頑張っていないのかっていうと、そうじゃなくて、いろんな事情がある。ところが、ただ大事なのは、基準を達してないところに、こういう風にしたらいいですよっていうようなことを指摘する、アドバイスなどを、行政がちゃんとやるということが前提で。平均点だけ見てもよく頑張っているなということしか分からないから。その点をよろしく願いますということ。

さっき聞いたところだが、包括の職員が5人のところあれば12人のところもある。これは、5人のところは大変か、12に人のところは余裕なのかと変な質問をしたんだけど、職員の配置は高齢者の人数にもよるんですね。必ずしもそう言えない。

補助員と生活支援コーディネーターかな。その5人でやったところは5人ということかな。

あとは事業所の判断でうちは少し増やそうと言ってくれるとありがたいんだけど、そういう事業者はあまりないみたいというような気がする。

ちなみに、またコロナが長引いたからね、コロナが終息した後に本来の活動を評価しようっていう、項目もある。どうしても今の段階ではちょっと評価しにくいところあるから、仕方がないかなという。去年もそう言ったんだけど、今年もまた潰れてしまった。

包括との協議の中で多かった意見があったら教えて欲しい。例えばね、会議ばかりあって会議を減らす方法がなかったとか。行政でいうと、行政計画ばかりあって、計画にばかりつくから、計画をやめようというような国意見など。そういうような意見というのは何かあったら、ここで言ってくれると。

○事務局

その計画とかそういう話はないんですが、やはり、高齢者見守り事業というのはちょっと課題があると思ってます。それがかなり包括にとって負担になられてるという状況がありますので、そこら辺はできるだけ我々の方も、本当に見守りが必要な方を回っていただける、そういったところを抽出をさせていただいてお願いする方向で検討していきたいと考えています。

○会長

包括は一応さっきも出たようにつなぐ機関が主流だから、包括自体が見守りするのはそれは大変。だからその見回りをやってもらえるところと繋いで「ちょっとあそこ行って」というのがの本来の役割だけど、現在は包括が担ってるかもしれない。それは大変である。会議も少ないほうがいいんだけどケア会議と運営協議会は重要。効率的にやるか重点的にやるかって話になると思う。

ほかにいかがでしょうか。報告事項もありますのでね、それを先にやってもらってまた後で御意見を伺います。

報告

<令和4年度 地域包括支援センターの重点的取組>

<地域包括支援センターにおける不審者対応訓練について>

○会長

はい、報告事項ですけども、もちろん御質問や御意見もいただきます。気づいたことをとおっしゃってください。オンラインの委員さん何か御質問とか、あればどうぞ遠慮なく言ってください。

20ページなんですけど、健康体操は随分活発にやってる。もちろんありがたいんだけど、訪問サービスが、ごみ出しとか買物代行とかそういう、これ重要だと思う、ニーズが高いと思

う。団体が少ないのでもう少し増えるといい。ただこれやったださる人が、その確保があるもんだから。これは課題かな。ごみ出し、買い物なんかも重要だと思うな、必要な人にとって。支援者のその確保が難しい。

○事務局

生活支援コーディネーターは各包括に配置しておりますけれども、そういった地域のニーズと支援を实际できるという方であったりとか団体であったりとか、そういったところに働きかけを行っていただいております。サービスの創出に取り組んでいただいているというところでございます。会長の仰るとおり、なかなか実際に、支援をする団体の立ち上げというところは活発に進んでいないというような状況でありますけれども、各包括支援センターの生活支援コーディネーターが中心となって、検討いただいているとうことでございます。

老人クラブでもですね、友愛訪問とかされるようなシルバーヘルパーのような仕組みもございますし、この補助金を使っていなくてもですね、熊本市で介護予防サポーターというのを育成してるんですけれども、今後ですねそういうサポーターの方たちが地域でそういう生活支援、援助が出来ないかなっていうことをですね今年度から少し検討をしたいなと思っております。

○会長

地域支え合い型サービスは一応増えてきているのでしょう。どういう形にせよ。補助金も出してるし。

○事務局

令和3年度につきましては、5つの団体が新規で立ち上がりまして、令和4年度は4月から現在まで5つの団体が立ち上がっているという状況でございます。一方ですね、活動の継続が困難ということで、活動を止められるっていう団体も、中にはあるという状況もございます。

○委員

18ページの自立支援ケアマネジメントに、各専門家が参加して、自立を考えていく、とても素晴らしいことだと思うのですが、ただ、ここに僕はいつもこう、感じているのが、家族への配慮というもの。専門家の意見はケアマネジメントに対してですが、家族が欲しいものと、我々が提供したものと本当に一致してるのかというのは大きな問題かなと思ってます。というのは東京で、主治医が猟銃で撃たれるなんて事件がありましたよね。あれは各スタッフが一生懸命やられて素晴らしい介護をやられたんだけど、家族は理解していなかったということですよ。そうするとそこら辺を説得するような内容とかそういうことの議論というのが、この会議の中でもやられるべきだと思うんですね。その辺をまた視点を持ってや

っていただければと思います。提案です。

○会長

あと、包括の重要な仕事の一つという処遇困難ケースの対応というのがある。年々、本当に処分困難である。こうやったらうまくいくってのはあればいいが。根気よく取組以外にはないというような結論になるような処遇困難事例が非常に増えてる。そうすると、それに当たる市職員のねメンタルヘルスみたいなものをもうやってると思うけど、これからもやっていかないと、相談に当たる人がもう大変と思う。そういうケースが増えてますよね。

○委員

23ページの熊本メディカルネットワークを活用したということなんですけど、これってカードを持ってそれを医療機関に示すと、その方のいろんな情報が入っているということですよ。

○委員

熊本大学を中心に各医療機関とか、介護のところとネットワークをつくって情報を共有しようという考え方。

○委員

そのカードを持っていくと、歯医者さんに行ったり、病院に行ったりしたときにそれで、その中の今までの履歴が分かる。お薬はこんな薬が処方されているっていうことが分かるんですよ。私は関係者の情報を共有するのかなと思ってた。患者さんがそのカードを持っていて、実は、相談を受けたことがあるんですね。そのカードを持ってこられて、「このカードの中に自分が認知症って書いてある。」とおっしゃる。だからどこへ行っても、「あなたは認知症なんですね」と言われるとおっしゃる。とても認知症の方ではないと思ったんです。それを持ってこられて、「この認知症っていうのがあると自分は今からまた働こうと思っていて、お仕事するのに、誰も雇ってくれない、認知症ならば」というお困り事だったん。これがもし本当なら、私はカードの中を確認してはいないんですけども、「だから自分は認知症じゃないという証明をしたい。」そういうご相談だった。なので、認知症疾患医療センターのほうに予約をした。認知症かどうかのなかついていうところがですね、こちらわかりませんし。このようなことがつい最近あったもんですから、予約もですね非常に長い期間待っておかなきゃいけない。もうそろそろかなとは思っているんですけど。もしそういうことがあったらですね、人権問題じゃないかなって思いましたもんですから。それと、これとが一緒なのかなということの確認です。

○会長

本来は、その人の過去の病気、血圧、症状、飲んでた薬なんかが入っていていちいち説明しな

くてもと同じこと聞かれなくてもさっと、次のところに対応してもらえるっていう便利な反面、抵抗を持ってる人は、もう何でも知られてしまうんじゃないかという。なかなかこうそういう抵抗感がある人がいて、広がりがなかなか進まない一つの問題だと。さっきの事例はちょっと初めて聞いたんで、ちょっとそういう記述の仕方はいけないなと思う。

○事務局

詳細にカードの実態というか把握しておりませんが、認識としてはデータ上の記載だろうと思うんですね、カードに表立って記載されてるわけではなく。医療機関同士、その情報が共有出来て、いろいろこう紹介状とか書かず治療とかそういった対応がスムーズにできるというふうな目的でされてるものだろうと。中身についてはちょっと、我々も不勉強でするので確認をさせていただきたいなと思う。

○委員

事業自体は、熊本県医師会が主体になってやっております。

今のような問題をどんどんむしろ向こうも情報としてほしいと思うんですね。ですからぜひ伝えていただければありがたい。

○会長

少なくとも利用する側も医療機関の側も患者の利益のために、やっている。患者のことを「あなたはこうですよ」と決めるための役割じゃない。そこはもうきちんと、持っておかないとさっきのような疑問が出てくる。何かいかにも烙印押されたような情報になるとまずい。確認しておいてください。

○委員

地域支え合い型サービスの実施状況のところなんですけれども、区別のサービス数というところで、中央区、東区、西区、南区、北区で、訪問、移動支援、通所みたいにしてると思うんですけど、西区と南区で訪問と移動支援がなかったりとかしてるんですけど、きっと、西区と南区でもその要望はあるのかなというふうには思う。なので、恐らくそれを担える人がいなかったりとか、そういう団体が立ち上がってもなくなってしまったりとかそういうことなのかなと思うんですけど、要望に応えられるような体制づくりみたいなことが、継続的にできればいいのかと思いました。包括へ行ったときに地域のサービス実施団体が受皿になっていて、機能している、重宝されているみたいな話を聞いたんですけど、やっぱりその、サポートしてる人の、給料っていうか基本的に、ボランティアになるのかもしれないんですけど、僅かながら謝礼みたいなものが出ているけれども、すごく少額であって、なかなかその、気持ちが行かないと出来ないという話も伺ったので、体制としてできればいいのかなと思いました。

○事務局

仰る通りだなと思っています。移動支援は、なかなか自分の車に乗せてあげて送迎したりするということで、やはりボランティアされる方もハードルを高く感じられるのかなと思っていますので、もう少しです、何かこう、やってみようかなと思っていただけるように、制度を見直していけたらなというふうには思う。

○委員

今のお話で思い出したんですけど、ワンコインサービスをやってもらってるっていう、そういうのがちょっと聞いたことあるんですね。団地のごみ出しなんか、結構大変ですよ。団地のそばに障がい者の方が作業されているところがあって、その障がいをお持ちの方が来るときに、そういうごみ出しして欲しいという方をですね、ワンコイン、500円だったか100円だったかそこは、はっきりしないんですけども。なかなか地元の方が、その近所の隣の人がついていう支援をするなんて、頼む方は逆にハードル高いから、ちょっと障がいがあって、でもやっぱり、人が役に立ちたいと思ってらっしゃる方がいれば、何かすごくいいマッチングかなというふうに思った事例もあったもんですから、もしそういったことが広がると、そういった事業所はあるので、一緒に協力できるんじゃないかなと思いました。

○会長

有償で金額はそんな高いのは駄目ですよ。そうです。でも、利用したいという人があればそれも利用できるような仕組み。

○委員

今言われたように例えば北区の大和団地ってあるんですけども、その中では頑張ってるような組織がある。自治会長さんたちが中心になって、いわゆるボランティアで、例えば暮らしが大変だとか、草刈りがどうだとか、いろんな問題を抱えた人たちに、一定の場所でいろんな情報を受けて、ボランティアのグループの人たちがそこに助成、加勢に行く。今言われたように、今から先のボランティアの在り方っていうのは1面では、「ボランティアでしょう」「無償でしょう」とかいうような考え方、捉え方が今変化をして、やっぱり、今言われたように有料ボランティアっていうそういうボランティアでも、若干のそれに対する報酬みたいなものを位置づけてやっていけば、一面では続くんだろうと思うんですけども、今、市もそれをちょっと幾つか奨励してるんですよ。幾つかの地域で。まだ、何か実証、検証みたいな感じの動きとかで、そういうのがあってるんですよ。それを、いろんな形で、地域の中でも、さっき言われるようにごみ出しとか、草刈りなんて大変ですから、それをどうしようかというような形で、いろんな知恵を出し合いながらやってるんですけども、結果としては今、行政が例えば、ごみ出しについてはふれあい収集というような、事業がありますんで、「もうこのばあちゃんおじいちゃん大変だね。いつもいっぱいごみが」と、誰か

が加勢に行ったりするような形なんですけども、今ふれあい収集を通して、こういう制度がありますよと。だから、例えば週に1回だけでここに全部集めておきさえすれば、市の委託業者が持って行ってくれますと、そういう制度を、私たちは地元のほうではPRをして、そういう方向性に持って行ってもらう。そのためには例えば、家族の同意書とが手続もあるんですけれども、そういうのをクリアして行って。そういうのは浸透して、結構、市の業者が、小さい道とか道路に玄関まで来てくれるんですね。そういう制度もある。

○会長

この20ページに書かれてる組織だけでね、問題を解決するのは難しいので、例えば草刈りを1000円でやってくれるところあるよっていうのは、そういうことを紹介できる情報が包括に集まってくると。千円ならお願いしますって言う人もいるかもしれない。そういう情報、地域情報を持つてることが大事かもしれない。やはり、これだけの組織、これ、この組織だけで、やろうとするとちょっと難しいかな、全部、だからいろんな、利用形態っていうか、有償無償を含めて、そういうものを準備する必要はありますよね。だんだんそういうのを発達してくるんじゃないかな。

○委員

それで非常に難しいなと思うのは、例えば、包括にどの辺までこうやってもらえるかっていうこと。正直言って今、新しい働き方の中では、なるべく負担を軽減をしていこうという方向性に今なってる。全体的にいろんなことで。学校の先生たちでも働きすぎだということで。働き方改革というのが、1面で進んでるわけですけど、例えば、包括がそのことも含めて、その業務内容とか何とかに、こうなっていくような形。この場合は、包括を支援して、どういう具合にしていこうかというのが主な場所でしょ。そうすると捉え方的には、ここだけで絶対出来ないわけであって、対外的に依頼をして、何かそういう形のものをつくっていくことは大変重要なことだろうと思うんですね。なかなか難しいところもあるのかなと。

○会長

包括が忙しいことはみんなよく分かっていて、毎年仕事が増えるものだと思う。少なくとも人員の確保ということをお願いして、補助員と生活支援コーディネーターを配置してそれでも大変。そのことを、課題として持ちながら、市だけで独自にやってもらえるとありがたいがちょっと難しいと思う。人材確保すら難しい。補助員を探すのも。それを含めて、包括は組織的な問題を抱えてる。何とかしてあげなきゃいけないという、この会議の意見は皆さん一致しています。それも考えていきましょうこれから。

○委員

ぜひ考えてもらわないと。例えば、地域の年配の方たちは、例えば、今まで常に見回りとか、訪問で来てくれていた包括職員が、これも人事異動とはかわりないんでしょうけどもや

っぱり4月期とか何とかになると、ベテランでしっかりした人たちが辞めていくような実態もあるんですよね。そうするとその人が今までやってきたことを、次の人に渡すときに非常に心苦しいような感じがして。地域の住民の方たちは、例えば全く4月から新しい人が来たときに、今までの信頼関係とか、今までの情報みたいなのをどうするのかとか、そういうのを担保しなくてはいけないところで、いろいろ考えると頭がいたいなど。

○会長

人材の確保とその継続は全ての組織の問題。そういうこともこれから考えていきましょう。毎回、問題点と課題は分かるんだけど、なかなか解決しないからねこの委員会なんか難しいよねって僕はいつも最後に言って終わるんですよ。今回もそうなりますけども、少しずつね、やっぱり前に進むようにやっていきましょう。全体として何かほかにありませんか。

○委員

今回、コロナというのは非常に大変だったと思うんですが、ただ、オンラインで色んなことができるようなことが分かったんですが。それから先ほどおっしゃった、例えばデータ化ですよ。ここに繋がればいいんだっていうのをデータでも、勝手に見て伝えてくださいっていう形をつくれば相談業務は逆に減るかもしれませんね。ですからそのデータを作るのは一義的には大変かもしれないが、長い目で見た場合には、省力化につながるかもしれない。そこら辺を加味して、これからどうあるべきかということの見方を少し切替えていかれたと思うんですよ。今日はそういうことを非常に感じました。

○事務局

ありがとうございます。本当の様々な御意見を頂戴いたしました。我々も新たな委託に向けて準備を進めていかななくてはならないと思っております。そういった中で皆さん方の御意見っていうのをしっかり踏まえさせていただいて、組み立てを整理していければと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

○委員

この委員会の委員になったことによって、その任務というか役割というか。例えば、包括が27カ所あるじゃないですか。こういうところに、お話を伺いに行ったりすることは可能なのでしょうか。例えばAの包括、Bの包括に行ってもいいとなるのか。というのは、こういう役割を担っているから、ちょっとお話を聞かせてくださいということを、ルール化して。そうすると安心していろんなところにお話を聞きに行ける。そこに入っていくの大変ですよ。何か余分なことされるんだろうかって警戒もされたりする。今から自分たちが例えばこの委嘱を2年間いただいた中で、そんな活動がある程度自由に行えるようなものがあれば、動きやすいというのがある。

○事務局

委員の立場として、当然いろんな現場を確認をしていただくというのは、ありがたいお話です。ただ事前に、御案内をさせていただいて、その後に回っていただくとかですね、スムーズになるかと思います。事前に、いつ行くというお話があれば、こちらの方で調整をしてスムーズに入っていける対応ができると思います。もうぜひありがたいお話なので、現場の声を聴いて、それをここで御意見としてぜひ出していただきたいと思います。こちらで調整をいたします。

○会長

勉強に行かれるのは大変ありがたいこと。ただ忙しいので、事前に連絡して、短い時間しかとれないと思いますけども、何時から何時までってことで。どうぞしっかり勉強されてまた、この会議でおっしゃってください。

閉会